

学校番号	15	学校名	東部特別支援学校伊東分校	校長名	上村 一成
------	----	-----	--------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

(1) 学習環境を充実させ、健康で、安全・安心な学校生活を確立する。（守る）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
(1) ア	安全・安心を守る学校組織の機能の充実	自分の役割や行動について確認することができた。防災マニュアルを検討し、改善できた。	訓練には個々の教員が課題意識をもって臨み、留意点等を明らかにする。防災マニュアルを随時、検討改善する。	A	成果…発災時に想定される役割分担を分掌ごとに確認できた。西小や地域と、残留時や避難所の話し合いが始まった。課題…防災マニュアルの改訂は、次年度も継続して取組む。引き渡し時と残留時の対応をさらに検討する。
		研修や訓練をとおして自分の取るべき行動が分かり、曖昧な点を確認することができた。	年度始めに、緊急時対応やその他のマニュアルを、机上で学ぶ研修会を実施する。その後、必要な演習を適宜実施する。	A	成果…訓練を通して、具体的対応を確認できた。課題…さらに具体的実践的訓練を実施していく。次年度は、医療的ケア児に対する対応や緊急時対応も研修していく。
(1) イ	学習環境の整備	校内の整理整頓に努めた。危険な箇所や状況を確認し可能な対応策をとることができた。対応状況を共通理解できた。	毎月の安全点検や日常気が付いた箇所の整理整頓・報告をとおして、校内の危険な箇所や状況の確認をし、速やかに改善を図る。状況を随時報告する。	A	成果…安全点検をすることで、危険への意識が高まった。修繕や対応の進捗状況を随時報告し、迅速に対応することができた。課題…児童生徒が利用する中庭の安全対策。限られた環境の中の教職員の整理整頓の意識。
(1) ウ	人権を尊重する教育の充実	教職員が、気になる言動を具体的に確認しあい、人権に配慮した対応及び改善がなされた。	人権チェック表での自己チェックを実施し、集約して問題を全体に周知し修正を図る。気になる対応について具体的に確認する。校内人権研修を実施する。	A	成果…人権チェック表の活用等、意識高く取り組んでいる。課題…引き続き、以下の方法を取入れ人権意識を高めていく。チェック表からの標語の掲示や呼びかけ。まねたい言動の取り上げ。人権研修のグループワークでの話し合い。

(2) 専門性に基づく指導をとおして、自己実現に向けた教育の充実を図る。（育む）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
(2) ア	個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づく個に応じた指導	保護者と共に教育支援計画・指導計画を作成し、指導に活用することができた。	アンケートやケース会検討をもとに、面談時に共通理解を図る。改良した教育支援計画・指導計画の効果的・効率的な活用について、検証し改善に努める。	A	成果…個別の指導計画を一本化し、効率化を図った。課題…改良した様式の活用。保護者の活用の促進を促す工夫。さらに次年度は、活用を通して、個のニーズに応じた指導につながるための研修の充実に取り組む。

様式第3号

(2) イ	研修による授業の充実と専門性の向上	研修計画に沿って児童生徒のアセスメントを行い、新学習指導要領を踏まえた目標を設定して授業実践を行うことができた。	新学習指導要領理解に向けた、研修を実施する。児童生徒の実態に応じた授業実践を支えるテーマ設定ツールの作成、グループ研修の内容等の研修体制の整備と充実を図る。	A	成果…共通アセスメントを使った実態把握と課題設定、一人一授業を通して新学習指導要領を研修する機会になった課題…研修二年目として、さらに新学習指導要領を踏まえ、課題設定や生活への広がり等をテーマにした授業実践に取り組む。
		ICTの活用方法やソフトの紹介、研修が参考になった。ICTを活用した授業を実践した。	iPADやパソコンなどICTの授業等への活用方法や、ソフトの紹介等を定期的に行う。必要な人を対象に情報機器の基本操作の研修を行う。	A	成果…パワーポイントやipadの活用が増加し、ICTを活用した授業実践が行われた。課題…引き続き、活用につながる情報機器やソフトの紹介、校内実践例の紹介を積極的に行う。
(2) ウ	関係諸機関との連携の強化によるキャリア教育の充実	児童生徒・保護者の卒業後の生活や将来の希望を意識した、授業実践や啓発ができた	小学部中学部の系統的なキャリア発達を確認する。将来の生活を意識した体験・見学等を実施する。キャリア教育に関する情報提供を行う。	A	成果…進路だよりや進路の掲示が充実し、教職員や保護者に将来を見通したキャリア教育の意識は育ちつつある。課題…保護者へのPRや、「伊東分校としてのキャリア教育」について、教員間の共通理解がさらに必要。
		必要な情報提供や、対象となる児童生徒の支援会議を実施した。連携支援の情報が、校内で共有できた。	児童生徒の課題解決や進路選択につながる情報提供や、支援会議を開催する。定期的に、校内に連携支援情報を報告する。	A	成果…支援会議から、有効な支援策や関係機関につなげることができた。課題…ニーズに応じた会議の迅速な開催、放デイ等の関係機関との連携を継続していく。

(3) 「地域の中で育つ児童生徒、地域の中で役割を果たす学校」をめざす。(つなぐ)

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
(3) ア	交流における交流及び共同学習の推進	相手校と、伊東分校の両方の児童生徒にとって活躍する場面や良いあられが見られた。	交流活動の打合せにおいて、両校の児童生徒が活動できるように協議して、計画的に推進する。学部単位で共通理解を図る。	A	成果…児童生徒が楽しみに交流を実施することができた。課題…より良い交流になるための、目的確認や計画・内容について有効な話合いの設定。分校から交流校への働きかけの工夫を検討。
(3) イ	地域における交流及び共同学習、地域資源活用の推進	学習の場に広がりが見られ、児童生徒が地域の中で学ぶことができた。地域の、分校に対する理解が深まった。	地域資源を活用して、地域社会の人たちと触れ合い、分校に対する理解を深める。更に地域に出る活動の場を増やしていく。たよりやHP等にて、分校の活動を地域に発信する。	A	成果…小学部、中学部それぞれの実情に合ったねらいや活動を計画。活動の幅の広がりや、便りやHP等の発信も実施。課題…地域の資源を利用する機会の更なる充実。地域への分校理解の手段と工夫の検討。地域の理解の実態の、評価の方法の検討。

様式第3号

(3) ウ	地域における特別支援教育のセンター的取組の充実	巡回相談などの支援依頼に校内資源を活用して対応できた。	市教育委員会と連携し、幼児保育教育機関、小中学校、高等学校の教育力向上のための支援をする。	B	成果…誠実に対応し、評価を得ることができた。 課題…校内への報告が不十分。報告方法を工夫し、分校教職員へもセンターの一員としての意識と自覚を促す。
----------	-------------------------	-----------------------------	---	---	--

(4) 教職員が互いに支えあい高めあい、働きやすい環境づくりに努める。(業務改善)

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
(4) ア	信頼される学校づくり	加害交通事故・違反ゼロ	不祥事根絶に向けた研修及び定期的な注意喚起を実施する。	B	成果…交通事故は年間で、違反1、加害事故1であった。 課題…引き続き、定期的な注意喚起を実施し、教職員が不祥事根絶と信頼される学校づくりの意識を持つ。
(4) イ	多忙化解消に向けた業務改善の推進	会議が時間内に効率的に実施された。自分の業務が明確化され、見通しを持って実施できた。	所要時間を決めて会議に臨む。掲示板の活用、事前の資料配布、議題予告に努める。業務の洗い出しと担当の明確化、期限の提示に努める	B	成果…会議効率化を意識するようになった。 課題…教職員からあげられた効率化のアイデアを実践し、時間短縮や効率化を実感できる会議にする。業務の効率化に向けて、役割や分担を見直す。
		定時退勤日が実施された。	週一回の定時退勤日、月1回の完全定時退勤日を設定する。	A	成果…月1回の完全定時退勤日が定着した。 課題…週一回の定時退勤日の意識はまだ不十分。 定時退勤以外の日の残業や持帰り仕事の増加については、業務・分担・効率化を見直し、学校全体で業務改善を進める意識が必要。